

# AFTERNOON TEA

## 料理の道を究める？

国立障害者リハビリテーションセンター研究所

和田 真

山梨大学の宇賀貴紀先生から引き継ぎました。宇賀先生が順天堂大学にいらっしゃったときに、脳波実習やカエルの皮膚神経などの学生実習やクラス担任会など、学生教育でご一緒させていただきました。そういった行事の打ち上げもまた楽しみで、一見クールでありながら実は温かいコメントに感動しておりました。私自身は、当時、助手になりたて、そして結婚したばかりで、研究に教育と、決して楽な日々ではありませんでしたが、北澤先生・宇賀先生をはじめとする講座の先生方との出会いは一生の思い出です。

今回は、私の趣味について紹介します。学部生のときは、天体観測と鉄道で、特に天体写真を撮りに、週末に夜な夜な山に行つては、夜更かしをしていました。今でも、鉄道の方は、息子とともに楽しんでいるものの、天体の方は、体力勝負なところもあるので、すっかりお蔵入りです。代わりにはまってしまったのが料理です。今から10年以上も前のことになりますが、机の上においてあったイタリア料理のレシピ本を広げてみると、そこにはプロトコルのようなものがあり、つい作ってみたら、それらしい料理ができるではありませんか！妻に仕向けられたのではないか、という気もしますが、様々なレシピ本を買いあさり、時には洋書を紐解き、イタリア・スペイン・ギリシャ・ポルトガル・モロッコ・レバノン・メキシコ・・・と様々な国の料理に挑戦してきました。気づいたのは、料理と研究の共通性と相違点です。

共通点は、どちらも、基本のプロトコルをしっかり学び、限られた時間の中で効率よく作業を流していくことが重要である点です。実験でも、効率の良い流れで動かせると、内心うれしいものです。料理も「生き物の理」を理解する必要があります。



料理の一例（カルパッチョとバスク風ガスパッチョ）

ます。魚を捌くのにには解剖の知識が必要です。10年以上前のエピソードですが、妻が職場から貰ってきたサンマに対して「脊椎動物の基本構造は同じだから大丈夫」と、いきなり刺身にトライして、失敗とはいわないものの、満足できず、しばらく魚を買ってきては挑戦したこともありましたが、それなりの魚を捌くことができるようになりましたが、大きな魚は、いまだに緊張します。心を落ち着けて精神統一をはかります（命をいただく、ということで、標本固定と同じ心持ちで）。肉を柔らかく調理するには、蛋白質変性など生化学を考える必要があります。なにより安全に調理するには、「清潔・不潔」の概念を活かしつつ、寄生虫・細菌学的に危険な挑戦は避けなくてははいけません。

相違点もあります。（プロの人に怒られてしまうかもしれませんが）料理は、流れや枠組みがあれば、多少分量が違って、意外と平気です（お菓子は分量比が厳密らしい）。しかも基本の流れを覚えてしまえば、多少アレンジしても大丈夫です。実験は一面似つつも、そうはいかないのは

言うまでもありません。

実践の一例、アジのマリネです。刺身用のアジを慎重に捌いた後、少し塩漬にした後に酢漬にしたものです。オリーブオイル、ニンニク+ $\alpha$ というシンプルな味付けですが、漬けすぎないとお刺身感もあって素材を味わえる飽きのこないメニューです。そして、もう一つは、ガスパッチョ、スペインの冷製野菜スープです。トマトをベースにした野菜の冷製スープですが、簡単に作れて、健康になれた気がします。

こんな趣味が仕事の役に立つこともあります。

外国からお客さんをお迎えするときなどに、先生の国（故郷）の料理やお酒の話をお話すると、話のつかみに最適です。自分の故郷の料理を褒められて嫌な気持ちのする人はいませんので、話が盛り上がります。今は、子どもが小さいこともあって、なかなか余裕がないですが、それでも、週末には、原点に立ち返って、料理の道を楽しんでいます。ただ漫然と作り続けるだけでなく、本業とともに、料理の道も楽しく究めていければと考えています。



Molecular and Cellular Biology, Harvard University  
田中 康代

名古屋大学大学院医学系研究科統合生理学の片岡直也先生よりバトンを頂きました。片岡先生とは京都大学大学院時代に研究室の縁により出会い、困ったときには助けてくれるという人柄の良さが隠せずじみ出ていることもあり、仲良くさせていただいております。片岡先生のおかげで念願の AFTERNOON TEA デビューを叶えることができました。（申し遅れましたが）私は2019年3月まで東京大学医学系研究科細胞分子生理学教室に所属しておりました田中康代と申します。長くて苦しい道のりでした7年のポストク+特任助教を経て今年4月よりボストンへ留学します。もうこの記事が出る頃にはボストンの街を堂々と歩いているはず・・・（どうか下を向いて歩いませぬように）。この歳になって生まれて初めての海外生活（やってみたかったのです）。しかも今回の目玉は家族を残しての単身赴任。楽しみな反面もちろん寂しくもあります。まずは我が家のペットたちと離れ離れになること。我が家にはシモフリインコのリタ君（4歳）と金魚のマガオ君（<1歳）がいます。リタ君はみかんとヒマワリの種とクルミが大好きで、色は黒から緑、緑から青とい



かわいいリタ君とマガオ君。インスタグラム (yasuyox) で公開中

うとてもきれいな色をしています。また、とてもなつっこく頭をなでるととても気持ちよさそうにし、ぴっぴつと言って手に乗ってきます。私が自宅のパソコンで仕事をしていると私の肩か頭に

乗ってじーっと見守ってくれます。ケージから出してほしいとねだるときは「リタクん!!!」と鳴きます。出してあげると、きゅうびいと幸せそうな声を発します。とても賢く凛々しく愛らしく、研究で疲れたときも癒してくれます。ある意味私のパートナーです。もう一人のアイドル、マガオ(真顔)君は和金で次女が金魚すくいでもってきました。マガオ君は小さい水槽(私がリタク君のキャリアバッグとしてネット通販で買ったら実際に来たのはただの虫かご。つまり騙された。しかしここで役に立ってひそかに嬉しい)の中でいつもじっとしていたり右往左往(?)していたりするのですがエサがほしいとぴょんと跳んでねだります。家にきたばかりの時は灰色で小さなフナかと

おもいましたがいまではきれいな赤色をしています。リタク君はまだちょっとマガオ君が怖いようです。こんなにかわいい我が家の動物たち。と、忘れてはいけないのが娘たち。この動物たちと娘たちと旦那さんを差し置いて一人ボストンへいくのは後ろ髪がひかれる思いですが長女に「行くんだったら行くで自分のやりたいことしてちゃんと成果上げてきなよ。ずっと夢だったんでしょ??家のことは任せて。」と言われ母感涙。なんと頼もしい子なのだ!と思いつつ93%は安心して飛びたつことができそうです。ともかく背筋をピンと伸ばして、後悔しないように家族のためにも頑張ってください。